

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200174		
法人名	株式会社 ユニマツトそよ風		
事業所名	山梨ケアセンターそよ風		
所在地	山梨県山梨市上神内川15-5		
自己評価作成日	平成26年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山梨市駅に近く、市街地に向かう道路に沿って建てられ、デイサービスとショートステイが併設している。駅周辺にはスーパーなど商店が多く、地域交流センターの街の駅があり、散歩や外出レクリエーションに適した環境にある。ボランティアとの交流も盛んで、児童、学生の訪問があり、高校生の体験学習や専門学校の実習施設になっている。傾聴ボランティア、琴の演奏会も行っている。消防団との関わりを密に持ち、2階のユニットからの避難経路でもある階段移動の際の指導を受け、安全に行動できるよう検討し工夫している。入所後身体状況が変わり、看取りを家族、事業所、医師、看護師と連携し行った。居室で針を使って自分自身のズボンの裾上げをしている利用者から我が家での状況を垣間見えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 山梨ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじ郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めのフロア会議で理念について話し合い、皆で作り上げた理念を確認して日々のケアに生かしています	年度初めのフロア会議で理念について話し合い、皆で作り上げた理念を確認して日々のケアに生かしています	以前の理念を年度初めに見直し、改めてフロアに掲げ会議で共有している。文言の“ニコニコ介護、生き生き介護”を常に意識し、利用者、職員が共に楽しく、豊かに日々を過ごせるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さん、近隣の幼稚園、小学校、高等学校、介護専門学校、お店、歯科医、薬局、病院等と繋がりを持ち日常的に交流している。	区長さん、近隣の幼稚園、小学校、高等学校、介護専門学校、お店、歯科医、薬局、病院等と繋がりを持ち日常的に交流している。	区の一員として掃除など共同行事に参加している。地域の店へ買い物にでかけたり、傾聴ボランティアや琴の演奏会、また園児、小学生、高校生の実習体験、専門学校生の介護実習など地域とつながりを持ち、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小、中、高、専門学生、が実習に来たとき、アイリス傾聴ボランティアの方が来所した時に認知症の理解や支援の方法をわかってもらえるよう努力をしている。当地域の認知症の実習施設になっている。	小、中、高、専門学生、が実習に来たとき、アイリス傾聴ボランティアの方が来所した時に認知症の理解や支援の方法をわかってもらえるよう努力をしている。当地域の認知症の実習施設になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	看取りサービスの提供やそれに伴い利用者の重度化が進んでいる事等を伝え、医師との連携の基にそよ風の実際を分かってもらい、様々な自立度にある利用者のケアがさらに充実するように工夫している。	看取りサービスの提供やそれに伴い利用者の重度化が進んでいる事等を伝え、医師との連携の基にそよ風の実際を分かってもらい、様々な自立度にある利用者のケアがさらに充実するように工夫している。	看取りケアでの家族、職員、医療関係者との関わりを含めた取り組みと実践を報告し充実したサービスの向上に努めている。事故、感染症など出された意見は、日々のケアの対応時に検討して活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に居室の空き情報等を伝える際、グループホームのケアに関する事等を伝えている。市町村からも入居に関する問い合わせや相談があり、市町村と積極的に協力関係を築きつつある。	市町村の担当者に居室の空き情報等を伝える際、グループホームのケアに関する事等を伝えている。市町村からも入居に関する問い合わせや相談があり、市町村と積極的に協力関係を築きつつある。	定期的に、市の介護保険課にケアやサービスの状況や入退居者の報告をしている。居室の空き情報を伝え、入居に関する相談など協力関係を密に築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議や必要時ミーティングを通して身体拘束について検討している。身体拘束はしないケアが基本だがやむを得ない時はご家族に報告し同意書をいただいている。ご家族への状況報告は蜜にしている。	フロア会議や必要時ミーティングを通して身体拘束について検討している。身体拘束はしないケアが基本だがやむを得ない時はご家族に報告し同意書をいただいている。ご家族への状況報告は蜜にしている。	身体拘束はしないが、やむを得ない場合は家族と相談して対応している。危険回避の場所以外のフロア等の出入口には施錠はしていない。スピーチロックについては理解しており、言葉遣いや声の強弱、トーンが気になる時は職員同士で注意あっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、フロア会議において虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に向け取り組んでいる。気付かぬ内に虐待ではないかと思われる行為をしているスタッフにはその時に声掛け、指導を行っている。	全体会議、フロア会議において虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に向け取り組んでいる。気付かぬ内に虐待ではないかと思われる行為をしているスタッフにはその時に声掛け、指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修において管理者、CMが権利擁護、日常生活自立支援及び成年後見人制度について学び必要時活用している。	管理者研修において管理者、CMが権利擁護、日常生活自立支援及び成年後見人制度について学び必要時活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には利用者や家族の不安や疑問点を尋ね説明を行い、理解してもらえるように関わっている。	契約の締結、解約の際には利用者や家族の不安や疑問点を尋ね説明を行い、理解してもらえるように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじ郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議に家族が出席し意見を言う機会を設けている。また面会時ご家族様に情報の提供を行い意見要望、本音が言いやすい環境を作り、頂いた意見要望を踏まえてケアに活かしている。	家族会、運営推進会議に家族が出席し意見を言う機会を設けている。また面会時ご家族様に情報の提供を行い意見要望、本音が言いやすい環境を作り、頂いた意見要望を踏まえてケアに活かしている。	家族の面会時、ケアプランについて話すなど、職員から積極的に接し、話しやすい状態を作っている。職員の異動についての意見は検討し、意向に沿う対応をした。また職員の現状が家族に伝わりにくいとの意見は『事業所だより』の利用を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	認知症介護の基本的な学習はフロア会議で行っている。会議の中で意見等を聞き皆で検討している。実習責任者や家族会の責任者など若手スタッフに任せた中で管理者、CMとの意見交換ができ運営に反映できるようになっている。	認知症介護の基本的な学習はフロア会議で行っている。会議の中で意見等を聞き皆で検討している。実習責任者や家族会の責任者など若手スタッフに任せた中で管理者、CMとの意見交換ができ運営に反映できるようになっている。	フロア会議で要望を出し、日常も話しやすい環境にある。休暇などの意見は“リフレッシュ休暇”を含め、対応している。また花見やドライブの外出時に新しく気がついて出された職員の提案は、次回の行事のプランに取り入れるなど運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりがやりがいを持って働けるよう、管理者や職員と話し合いを行っている。	代表者は職員一人ひとりがやりがいを持って働けるよう、管理者や職員と話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設内外の年間計画を立案すると共に、施設外への研修の参加を促し、働きながらトレーニングしていくことを進めており、今年も施設外研修に参加している。	代表者は施設内外の年間計画を立案すると共に、施設外への研修の参加を促し、働きながらトレーニングしていくことを進めており、今年も施設外研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流する事を進めてくれ、地域のネットワーク作りや勉強会への出席や相互訪問の活動を通してサービスが控除できるようにしている。	代表者は管理者や職員が同業者と交流する事を進めてくれ、地域のネットワーク作りや勉強会への出席や相互訪問の活動を通してサービスが控除できるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入する段階で、本人の思いが表現できるように、声掛けや表情の観察等目配り、気配りを行い、困っている事を聞き、努力をして本人との関係が早期に築ける努力をしている。	サービス導入する段階で、本人の思いが表現できるように、声掛けや表情の観察等目配り、気配りを行い、困っている事を聞き、努力をして本人との関係が早期に築ける努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入する段階で、家族の思いが表現できるように、表情の観察を行い、言葉に出来ない思いを察するように努めて、家族との関係が早期に築ける努力をしている。	サービス導入する段階で、家族の思いが表現できるように、表情の観察を行い、言葉に出来ない思いを察するように努めて、家族との関係が早期に築ける努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人、家族の思いを聞き、同一建物内にあるショートステイの利用を提案した。結果2名の利用者様が週末SSを利用している。他のサービスも含めた対応に努めている。	サービスを導入する段階で、本人、家族の思いを聞き、同一建物内にあるショートステイの利用を提案した。結果2名の利用者様が週末SSを利用している。他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の想いに寄り添い、利用者様と共に喜怒哀楽を共有し、職員は本人を介護される側におかないで、暮らしをともにする者同士のかんけいを築くようにしている。	利用者様の想いに寄り添い、利用者様と共に喜怒哀楽を共有し、職員は本人を介護される側におかないで、暮らしをともにする者同士のかんけいを築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじ郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの支援は利用者にとって大きな喜びである。また家族も利用者の利用者の支えになっている事は家族にとっての喜びと感じている。本人と家族の今までの関係を大切にし情報の共有をし共にケアしている。	家族からの支援は利用者にとって大きな喜びである。また家族も利用者の利用者の支えになっている事は家族にとっての喜びと感じている。本人と家族の今までの関係を大切にし情報の共有をし共にケアしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を一部活用し、利用者の今まで大切にしてきた馴染みの方が面会しやすい環境を作り居室にてゆっくり談笑して頂いている。利用者の行きたいと思う場所へのドライブを実施している。	センター方式を一部活用し、馴染みのお店への買い物に行き、地域の方との関わりを深めている。また馴染みの方が面会しやすい環境作りをしている。利用者の行きたいと思う場所にドライブを実施している。	親戚や幼なじみの面会に居宅でゆっくり寛げるよう支援している。帰宅願望のある利用者とは自宅周辺をドライブしたり、また馴染みの店に行き知り合いの店員と会話を楽しむ機会も作っている。洋裁を好む利用者に居室で針を使って繕いものが継続出来る支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支えあえるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、座る席を配慮し、利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援をしている。また制作活動や趣味の活動等に際しては、利用者同士の関係性を配慮した関わりをしている。	利用者同士の関係を把握し、座る席を配慮し、利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援をしている。また制作活動や趣味の活動等に際しては、利用者同士の関係性を配慮した関わりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後ご家族が来所された際近況をお尋ねし、ひつように応じて支援させていただきますとお伝えした。	契約終了後ご家族が来所された際近況をお尋ねし、ひつように応じて支援させていただきますとお伝えした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉でうまく表現出来ない利用者や認知面の問題で会話が不自由な方、又思いを表現できる方々に対し、思いを察し声掛けしたり、例えばトイレを希望して場合には本人の意向」を大切に関わっている。	言葉でうまく表現出来ない利用者や認知面の問題で会話が不自由な方、又思いを表現できる方々に対し、思いを察し声掛けしたり、例えばトイレを希望して場合には本人の意向」を大切に関わっている。	日頃の会話やおやつのお話時に希望等をさり気なく聞いて対応している。困難な利用者には穏やかに接し、気持ちに共感することなどで意向を把握し支援に努めている。裁縫の趣味がある利用の要望には、周りに危険が無い中で針が使えることのできる支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を理解する事は利用者を理解するうえで欠かせない事であり、家族との関係性を築く中でこれまでの生活に関する情報を得て、利用者の支援に活かしている。	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を理解する事は利用者を理解するうえで欠かせない事であり、家族との関係性を築く中でこれまでの生活に関する情報を得て、利用者の支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの日々の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの利用者日々チームとして関わる中で、出来ないことと決めつけるのではなく、日々関わる中で、今日と昨日の違い等細かな把握に努めている。できる事が見つかった時には職員全員で喜びを分かち合っている。	一人ひとりの利用者日々チームとして関わる中で、出来ないことと決めつけるのではなく、日々関わる中で、今日と昨日の違い等細かな把握に努めている。できる事が見つかった時には職員全員で喜びを分かち合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一人ひとりの利用者のケア会議を職員全員で行い、担当者会議も定期的実施している。利用者の変化や新たな課題等を発見し、家族との情報の交換にも力を入れ、現状に即した介護計画立案に向け努力している。	毎月一人ひとりの利用者のケア会議を職員全員で行い、担当者会議も定期的実施している。利用者の変化や新たな課題等を発見し、家族との情報の交換にも力を入れ、現状に即した介護計画立案に向け努力している。	入所時に家族から生活歴などを聞き、本人の様子から状況を把握して担当者会議で暫定プランを作る。利用者の担当者とのフロア会議やモニタリング、見直しでケアマネジャーが期間の介護計画を作成する。状態変化時には現状に即した計画を立案して家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見て、読んで役に立つ記録を書こうをきっかけ日々の記録は、利用者のトピックスや経過をおう為の必要事項を皆で取り決め、職員間の情報の共有に記録をきざいするようにしている。	見て、読んで役に立つ記録を書こうをきっかけ日々の記録は、利用者のトピックスや経過を応為の必要事項を皆で取り決め、職員間の情報の共有に記録をきざいするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじ郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が求めているものは何か、ニーズを見極め、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。利用者、家族と話し合いショートステイの利用を促しショートステイ利用となった。	利用者が求めているものは何か、ニーズを見極め、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。利用者、家族と話し合いショートステイの利用を促しショートステイ利用となった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、近隣に耳鼻科、歯科、皮膚科、薬局、幼稚園、高等学校、ボランティアの方々の力を借りている。	地域包括支援センター、近隣に耳鼻科、歯科、皮膚科、薬局、幼稚園、高等学校、ボランティアの方々の力を借りている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医の希望がある場合は本人と家族の意向を尊重し、継続的な医療が受けられるように支援している。	かかりつけの医の希望がある場合は本人と家族の意向を尊重し、継続的な医療が受けられるように支援している。	家族が遠方でもかかりつけ医を希望する利用者には、ケアマネジャーや管理者が受診同行の支援をしている。また月に1回の協力医の往診と週1回の訪問看護の来所がある。緊急時のナースサポートの利用や薬局との連携があり継続的な医療が受けられるような支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来ている。訪問看護がない時はそよ風内の看護師と連携を取っている。介護と看護での連携を密にできつつある。医療や看護が受けられる様になっている	週1回訪問看護師が来ている。訪問看護がない時はそよ風内の看護師と連携を取っている。介護と看護での連携を密にできつつある。医療や看護が受けられる様になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は看護サマリーを記載し、利用者に適したケアが受けられるようにしている。又機能低下を最小限にする為に短期間で退院できるように病院関係者と話し合ったり、入院中は面会に行くようにしている	入院する際は看護サマリーを記載し、利用者に適したケアが受けられるようにしている。又機能低下を最小限にする為に短期間で退院できるように病院関係者と話し合ったり、入院中は面会に行くようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、本人の看取りの希望があれば、早期の段階で家族、かかりつけ医師と今後の意向を確認し、日々変化する状態にたいし家族、医師、看護師、職員で情報の共有を密に行ない、日々の終末期ケアで何をするか具体的に検討してケアしている。	家族、本人の看取りの希望があれば、早期の段階で家族、かかりつけ医師と今後の意向を確認し、日々変化する状態にたいし家族、医師、看護師、職員で情報の共有を密に行ない、日々の終末期ケアで何をするか具体的に検討してケアしている。	入所後容態が変化し、利用者の家族の希望もあり看取りを行った。家族、医療機関、事業所が連携を取り、食事のケア、身体の清潔保持など最期まで懸命に関わることができた。職員は一連の状況を共有して居室にて支援ができた。家族の希望があれば職員間で介護方法を検討して出来る限り終末期の対応をしていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講しています。利用者の急変に備えての連絡体制ができている。また急変に備え予測される急変時対処方法については職員が実践できるようにフロア会議で話し合いをしています	普通救命講習を受講しています。利用者の急変に備えての連絡体制ができている。また急変に備え予測される急変時対処方法については職員が実践できるようにフロア会議で話し合いをしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難訓練を実施し、いざとゆう時に備えている。地域の消防団との協力関係は築いている。11月24日そよ風全体と地域の消防団との避難訓練を実施した。	昼夜の避難訓練を実施し、いざとゆう時に備えている。地域の消防団との協力関係は築いている。11月24日そよ風全体と地域の消防団との避難訓練を実施した。	昼夜の避難訓練を実施している。地域の消防団との訓練の際、避難経路である2階からの階段使用について指導を受けた。併設のショートステイとの連携があり、両棟への移動通路や初期消火、通報、防災ずきんの使用等確認をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアで利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に心がけている。フロア会議や日々のケアの中で職員同士良くないところは注意しながらプライバシーの確保、尊厳の確保をしていく。	日々のケアで利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に心がけている。フロア会議や日々のケアの中で職員同士良くないところは注意しながらプライバシーの確保、尊厳の確保をしていく。	トイレ誘導や日常の声かけ等気持ちを損ねない言葉かけや、慣れ合いの言葉遣いにならないよう心掛けている。入浴時プライバシーの確保に努めている。書類は施錠書庫に管理され、書類記入の際の場所も配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじ郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が喋れない利用者や、思いをうまく表現出来ない利用者に関しては、声掛けをしたり、言いたいことを察して、何をしたいのか等自己決定できるように支援している。	言葉が喋れない利用者や、思いをうまく表現出来ない利用者に関しては、声掛けをしたり、言いたいことを察して、何をしたいのか等自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物など、希望のあった時には利用者の思いを聞き入れ、その日をどのように過ごすか話し合いを行い、その日の過ごし方を利用者と共に決めている。	入浴や買い物など、希望のあった時には利用者の思いを聞き入れ、その日をどのように過ごすか話し合いを行い、その日の過ごし方を利用者と共に決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など好みの物を選んでいただいている。	洋服など好みの物を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものとなるよう利用者の出来る能力を活かし、職員と共に食事を作ったり、後かたづけをしたりしている。	食事が楽しみなものとなるよう利用者の出来る能力を活かし、職員と共に食事を作ったり、後かたづけをしたりしている。	併設の厨房から献立と材料が届き、各ユニットで調理をして配膳をしている。職員は持参の弁当や併設施設からの食事で食事をしている。下膳の手伝いをしている利用者もいる。朝食や行事の際、リクエスト食を作っている。	利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを楽しむことが大切です。職員の見守りの体制があるが、利用者と同じものを食べながら見守り、介助し、和やかに食事を楽しむことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や体重の増減、好みの等を配慮し食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して摂取出来る様になっている。	一人ひとりの状態や体重の増減、好みの等を配慮し食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して摂取出来る様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員一人ひとりが認識している。毎食後の口腔ケアを口腔の状態や利用者の出来る能力に応じて、口腔ケアを行っている。	口腔ケアの重要性は職員一人ひとりが認識している。毎食後の口腔ケアを口腔の状態や利用者の出来る能力に応じて、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄する事を基本にしている。一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツを使用する場合にはその利用者に適したオムツの選定をしている。	トイレで排泄する事を基本にしている。一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツを使用する場合にはその利用者に適したオムツの選定をしている。	チェック表でトイレの排泄パターンを把握し、声かけ誘導で自立できるよう支援に努めている。トイレへ時間誘導や排便の間隔などを把握して、リハビリパンツとパットから布パンツに変更になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の利用者の便秘の原因を把握し、個々に合った便秘に対する支援を行っている具体的な。牛乳好みの水分量等の調整を行っている。	個々の利用者の便秘の原因を把握し、個々に合った便秘に対する支援を行っている具体的な。牛乳好みの水分量等の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	高齢や体調不良で、ご本人よりの希望で週2回の入浴のかたがっている。入浴時間は健康に影響を及ぼさない範囲でゆっくり本人のペースでおこなっている。	入浴拒否が強い方がいる。入浴する事で不穏になるので現在週1回とし1回の入浴を確実に穏やかな気持ちで行えるけあをしている。入浴時間は健康に影響を及ぼす内範囲でゆっくり本人のペースで行っている。	午前と午後の時間帯に実施し、週3回を入浴が出来るように心掛けているがレクリエーションやドライブが優先されることもある。好みの石鹸を使用している利用者もいる。拒否が強い利用者には気持ちに共感し、さり気ない誘導で入浴している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじ郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの状態により、疲れたような表情をしている時、自分から思いをひょうげんできない時等、声掛けして休む事を勧めたり、臥床も本人の思いや状況を見極めしえんしている。夜間は熟睡できる環境整備をしている。	利用者一人ひとりの状態により、疲れたような表情をしている時、自分から思いをひょうげんできない時等、声掛けして休む事を勧めたり、臥床も本人の思いや状況を見極めしえんしている。夜間は熟睡できる環境整備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が確実に内服できるようなケアを行っている。内服の効果が出現しているか、副作用が強いかな職員全員で確認している。訪問看護師やドクターに確認しながら行っている。	利用者が確実に内服できるようなケアを行っている。内服の効果が出現しているか、副作用が強いかな職員全員で確認している。訪問看護師やドクターに確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人にあった役割職員と共に行い、楽しみや達成感などを共有している。	利用者一人一人にあった役割職員と共に行い、楽しみや達成感などを共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得ながら、本人の希望に沿い日常的に外出をしている。	家族の協力も得ながら、本人の希望に沿い日常的に外出をしている。	花見や紅葉を観に、ドライブに出かける。景色のよい所で昼食をとることもある。ドライブの際に帰宅願望がある利用者の自宅近くに行くこともある。家族の面会時に夕食や買い物、墓参りなどに出かけている。日常的に散歩や中庭など戸外に出て日光浴、外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ事により安心感を感じている事を職員は理解している。買い物の希望があるときには職員と話し合いを行い、買い物に行っている。預り金に関しては家族、本人と話し合い、規定に基づき管理している。	利用者がお金を持つ事により安心感を感じている事を職員は理解している。買い物の希望があるときには職員と話し合いを行い、買い物に行っている。預り金に関しては家族、本人と話し合い、規定に基づき管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい得にはでんはができるようにプライベートにはいりようし支援している。また手紙も同様に支援している。	電話をしたい得にはでんはができるようにプライベートにはいりようし支援している。また手紙も同様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の制作は利用者と共にしている。制作でも季節感を味わっていただき、制作物の展示で共同作業の喜びも感じていただいている。花壇、玄関前の花々をテーブルや洗面所等に飾り居心地良い空間を作っている。温度、湿度の管理もおこなっている。	毎月の制作は利用者と共にしている。制作でも季節感を味わっていただき、制作物の展示で共同作業の喜びも感じていただいている。花壇、玄関前の花々をテーブルや洗面所等に飾り居心地良い空間を作っている。温度、湿度の管理もおこなっている。	リビングは陽当たりがよく明るく、壁には季節ごとに利用者と職員と一緒に制作した飾り物がある。大型テレビやソファが置かれ、一同が集う共用空間が食堂と一体となっている。対面式のキッチンにはホールの利用者を見守る事ができ、調理時の匂いや音に生活を感じ、家庭的な雰囲気の中で過ごすことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置いたりして気分転換が図れるような居場所の工夫をしている。	共用空間にソファを置いたりして気分転換が図れるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中には、利用者や家族と相談して使い慣れたテレビや冷蔵庫、家族の写真などを置く、そよ風のレクリエーションの写真等も置き少しでも居心地の良く過ごせるよう工夫している。	居室の中には、利用者や家族と相談して使い慣れたテレビや冷蔵庫、仏壇、ソファ、家族の写真などを置く、そよ風のレクリエーションの写真等も置き少しでも居心地の良く過ごせるよう工夫している。	ベッド、カーテン、エアコン、クローゼットの設置がある。備え棚を利用して持参した仏壇やテレビ、写真を置き、冷蔵庫、整理ダンスなど利用者の使い易い家具で、自分らしく居心地のよい部屋で過ごしている。中には居室の椅子で洋裁が出来る配慮がされてもいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な所に手すりを付け、カレンダーを用意する、時計を設置、床の安全を配慮する、トイレとはっきり明示する。、各居室が分かるような工夫等している。	必要な所に手すりを付け、カレンダーを用意する、時計を設置、床の安全を配慮する、トイレとはっきり明示する。、各居室が分かるような工夫等している。		